四万十町教育委員会会議録（令和2年11月定例会）

1. 日 時 令和2年11月10日（火）午前9：00～午前10：50

2. 場 所 四万十町役場本庁東庁舎 2階 町民活動支援室

3. 出席者

教育長	山脇光章				
教育委員	横山順一	坂本維子	石崎豊史	佐々倉愛	
事務局	教育次長	浜田章克			
	生涯学習課	課長	林 瑞穂		
	学校教育課	課長	西谷典生	副課長	東 孝典
		教育対策監	中川千穂	係長	小島 由実
	教育研究所	所長	岡 澄子		

4. 傍聴者

0名

5. 日 程

(1) 開会

(2) 教育長あいさつ

(3) 会議録署名委員の指名 (佐々倉委員)

(4) 議題

①承認第1号 専決処分の承認について（会計年度任用職員の任用（発令）の承認）

②承認第2号 専決処分の承認について（指定校区外就学の承認）

③議案第1号 四万十町招致外国青年勤務成績評定要領の一部を改正する訓令について

④議案第2号 令和2年度四万十町運動部活動改革推進委員会委員の委嘱及び任命について

⑤議案第3号 指定校区外就学申請の取扱いについて

⑥議案第4号 指定校区外就学申請の取扱いについて

⑦議案第5号 指定校区外就学申請の取扱いについて

(5) 協議事項

なし

(6) 報告事項

①令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について
（四万十町版）

②小鳩保育所の進捗状況について

③高南台地総合美術展覧会について

(7) その他

①適正配置計画の進捗状況について

6. 議 事

教育長 : これより令和2年11月教育委員会定例会を開催します。それでは早速、議題に入

りたいと思います。承認第1号 専決処分の承認について（会計年度任用職員の任用（発令）の承認）、事務局より説明をお願いします。

（事務局より、承認第1号 専決処分の承認について（会計年度任用職員の任用（発令）の承認）、説明する。）

教育長 : 承認第1号専決処分の承認について説明を申し上げました。この件について2ページ、3ページ、4ページ、3名の方の任用ということとなります。この内容について少し詳しく説明をしていただけたらと思います。

岡教育研究所長 : 教育支援センターで現在、1年間の任期で指導員を任用しておりますけれども、病気休暇を現在、取得しております、生徒は今のところ、定期で通ってくるのが1名、確実に通ってくる生徒が2人います。その関係で毎日の勤務で全員が支援をしているわけではありませんのが、1人体制では対応は厳しいため、常に2人体制を取りたいと考えています。なかなかシフトが組みにくいということで、このため新たな方が週2日程度なら可能ということでシフトを組むということで、任期のほうは3月31日までを決めたところです。

教育長 : 3ページの保育所の関係を生涯学習課長お願いします。

林生涯学習課長 : 保育所については東又保育所、いわゆるパートです。

教育長 : 4ページについて学校教育課長お願いします。

西谷学校教育課長 : 田野々小学校で不登校気味の児童がおりまして、その児童がやっと出てくれるような形になってきました。課題がありますのでどうしても支援員さんを付けて、課題がありますので見ていきたいということです。ですから、なるべく早くということで11月から付けるのですが、最初にお願ひした方が12月10日からしか来れないということで、取りあえず11月から12月9日までの期間にこの方をお願いして申し訳ないですが、つなぎという形で配置ということでございます。

教育長 : 全て11月1日発令で、10月の専決処分ということです。この時期でありますので、少し事務局より説明をさせていただきました。この件について何かご質問等願ひいたします。特にありませんでしょうか。

それでは、承認第1号 専決処分の承認について（会計年度任用職員の任用（発令）の承認）、について承認をいただけますでしょうか。

全委員 : はい。

教育長 : 続いて、承認第2号 専決処分の承認について（指定校区外就学の承認）、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局より、専決処分の承認について（指定校区外就学の承認）、説明する。）

教育長 : 承認第2号の専決処分の承認、指定校区外の就学の承認であります。この児童については4月から窪川小学校に入学しており、その後、転居されたということで、書類上は、10月になっておりますが、2学期の始まる前に転居されたということで、手続き上、書類が10月になっているということです。この件について何かご質問等あれば願ひをいたします。

それでは、専決処分の承認について（指定校区外就学の承認）、は承認をいただけますでしょうか。

全委員：はい。

教育長：続きまして、議案第1号 四万十町招致外国青年勤務成績評定要領の一部を改正する訓令について、事務局より提案をお願いします。

（事務局より、議案第1号 四万十町招致外国青年勤務成績評定要領の一部を改正する訓令について、説明する。）

教育長：上位の就業規則自体が全面改正となって、また、勤務評定の時期がこの時期になるということもあって、前段で要領の一部を改正するという議案でございます。これについてご質問等あればお願いをいたします。

無いようですので、議案第1号 四万十町招致外国青年勤務成績評定要領の一部を改正する訓令について、承認をいただけますでしょうか。

全委員：はい。

教育長：議案第1号 四万十町招致外国青年勤務成績評定要領の一部を改正する訓令について、は全員の承認をいただきました。

続きまして、議案第2号 令和2年度四万十町運動部活動改革推進委員会委員の委嘱及び任命について、を議題といたします。この件について、事務局より説明をお願いします。

（事務局より、議案第2号 令和2年度四万十町運動部活動改革推進委員会委員の委嘱及び任命について、説明する。）

教育長：議案第2号について、事務局より説明がありました。四万十町運動部活動改革推進委員会設置要綱が今年3月4日から施行ということで、この要綱に基づき委員会の委員の委嘱及び任命でございます。この件についてご質問等あればお願いいたします。

横山委員：自分も任命の時期が気になったのですが、2条の関係もあって検証もするとかという、課長が説明したとおり、来年は早めに委嘱をして2回、会が持てるようにしてもらったらと思います。

西谷学校教育課長：大変申し訳ないですが、来年度からは2回ぐらいはしたいと考えてます。今年は、申し訳ないですが、1回になろうかと思えます。よろしく願いいたします。

教育長：他ございませんでしょうか。

この件については委嘱任命時期がこの時期となりましたので、来年度以降は検証を出来るように早めにということで進めさせていただきたいと思えます。

質疑等なければ、議案第2号 令和2年度四万十町運動部活動改革推進委員会委員の委嘱及び任命について、承認をいただけますでしょうか。

全委員：はい。

教育長：全員承認で可決されました。

それでは引き続き、議案第3号 指定校区外就学申請の取扱いについて、を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

（事務局より、議案第3号 指定校区外就学申請の取扱いについて、

説明する。)

教育長 : 議案第3号について、説明をさせていただきました。来年度の新入生の校区外就学申請であります。この件について何かご質問等あればお願いをいたします。

横山委員 : 窪川小学校の人数が多いので、ある面、心配な部分もあるんですが、保護者が、境をあまり変えないほうが良いということですね。

西谷学校教育課長 : 友達の関係で、見付の方のほとんどが窪川小学校へ行きます。多分、小さい学校から途中で大きい学校へ入るよりは今の友達と一緒に、大人数になりますが、窪川小へ行って慣らしていくほうが良いのではないかとというふうに判断されたのではないかなと考えています。

横山委員 : 保護者がですね。

西谷学校教育課長 : 本人は分からないですけど、保護者はそういうふうに考えられたんじゃないかなと思います。

教育長 : 2歳児の時に川口保育所から見付保育所へ行ったという経過もあって、保護者の意向ですが、窪川小での人数よりは川口小での少人数の方が目が行き届くのですが、保護者の意向ということです。桧生原からなので、今も行っているの、見付保育所長の意見書がありますが、加配で対応させていただいており、こういう意見書が出てます。友達関係も含め、窪川小学校への就学を希望ということです。

この件についてご意見等ございませんでしょうか。

議案第3号 指定校区外就学申請の取扱いについて、の件についてご承認いただけますでしょうか。

全委員 : はい。

教育長 : ありがとうございます。全員の承認で可決されました。

続いて、議案第4号 指定校区外就学申請の取扱いについて、の説明をお願いいたします。

(事務局より、議案第4号 指定校区外就学申請の取扱いについて、説明する。)

教育長 : 議案第4号についても指定校区外就学申請であります。この件について質疑等あればお願いをいたします。

浜田教育次長 : 他の自治体ではもっと緩い運用をしているところがあって、小学校の途中で移動したら6年まで毎年の申請は要るけど、認めたりする場合があります。保護者の意向を尊重するよという文科省からの通知もあって、改定をしてみたいなというふうに思っているところです。いつ、ご提案できるか分かりませんが、検討中ということです。

教育長 : 新1年生であります。この時期、また年が明けてもいろいろ出てくるかも分かりません。学級編成にも影響することがあるので、ここらは辺も注意して異動の関係を見ていかないといけないと思います。

議案第4号については質問等ございませんでしょうか。

それでは、議案第4号 指定校区外就学申請の取扱いについて、ご承認をいただけますでしょうか。

全委員 : はい。

教育長 : ありがとうございます。全員承認いただきました。

続いて、議案第5号 指定校区外就学申請の取扱いについて、を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

(事務局より、議案第5号 指定校区外就学申請の取扱いについて、説明する。)

教育長 : 議案第5号についても来年の新1年生の案件でございます。この件について質疑等あればお願いをいたします。

ご承認をいただけますでしょうか。

全委員 : はい。

教育長 : ありがとうございます。全員の承認で議案第5号 指定校区外就学申請の取扱いについて、可決をさせていただきました。

以上で議題を終了させていただきたいと思えます。

続いて、協議事項はありません。

次に、報告事項に移りたいと思えます。令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について、事務局よりご説明を申し上げます。

教育長 : 令和元年度の調査結果です。先ほど言われた、暴力行為については減っているということですが、いじめの認知件数については、細かい把握、基準もそうなんですが、特に1,000人当たりのいじめの認知件数は、高知県、全国含め四万十町は突出して非常に高いという数字等があります。まず、いじめについての調査結果ですけども、委員さんからご意見等もいただければと思えます。

石崎委員 : 中学校が平成30年度の認知件数が9件、令和元年度が38件、4倍以上にもなっていることが気になってます。四万十町が突出して多いというのが気になっているわけですが、四万十町が比較的眞面目に、悪意のない冷やかし、からかいなどをきちんと把握して、それを実質上げてからこういう結果になったのかなというような気もするんです。そんなに他の市町村と差があるというのも、妙におかしいような気もするんです。そのあたり、現場の雰囲気としてはどのような感じで捉えてるんでしょうか。

中川教育対策監 : 例えば、事案として上がっていたのは、勉強してて、勉強が分からない子に対して、お前、こんなのが分からないのかと言われたのが、すごい傷ついたといった自分たちの中学生時代には見過ごされてたものも、そういう形で細かく先生方が計上しています。子どもたちの様子をすごく見取っているということかと思えます。本当に細かく、馬鹿と言われたとか、こんな嫌なことを言われたとか、昔であればちょっとしたトラブルとして、まあ、こんなことは子ども同士だから、よくあるよねという案件も細かく学校のほうは見取って上げているということです。記録も、いつ、どういうことが、誰と誰であったかということも全部記録もして、いつでも報告できるような形で準備をさせていただいている状態です。そういった子ども同士のちょっとした事案も上がっているということです。

中学校の件数が増えているのは、6年生のとき大変だった学級が中学校に上がって、落ち着きにくかったことでこういう状態になったということです。そういったものも上げていますので。実際に重大な案件につながっているのかということになると、そういう話は委員会の方には挙がってきていません。学校の方には、心配な所には何校

かお電話もさせてもらって状況を聞いていますが、そういう事案はありませんでした。

もし、心配なことがあっても保護者と連携して、保護者に説明をして解決しているということで今現在、心配なことはないようです。一応、1回そういうことがあると、3か月は様子を見ながら継続ということになっていますので、数値が高くなっていますが、町内の小中学校が荒れてるっていう状況ではないと思います。

暴力の件数については、先ほど言ったように減ってきてますので、学級自体も全体的にちょっとずつ落ち着いてはきてると思います。でも、課題はどの学校もありますので、それについては、先生方が日々やっているので、そういうところは数字と、また今年度を昨年と比べたらどうなのかなという比較もできるかと思います。昨年度はこういう状況であったということだと思います。

佐々倉委員： 難しいと思うんですが、この調査に意味があると思うし、先生が目光らせるというか見守ることの意識付けとしては必要だし、それを記録していくということが、より細かいカルテみたいな状況になるのは大事なかなと思います。ただ、ここに上がってきているのは結局は言えた子とか、目の前でたまたま起こったことでしかないと思うので、休み時間中に子ども同士であったことを全て子どもが先生に報告をしているかというところ、そうではないと思うんです。だから、結果として数字が全国比より多い、去年より多いということになったとしても、ただ、全部は拾えてないと思うんです。事実で言えば多分、もっとたくさんあるのが事実で、その中でたまたま報告されたり見たのが一部、ここに載ってる状況だと思います。

全国比より多い、去年より多いというよりも、今、中川先生がおっしゃられたとおり、去年から特定の子が連続して何回かあることであったり、学年として雰囲気、その学年という経過観察のほうがすごく重要だなと思います。あんまり全国比と比べてどうかっていうことよりも、現状どうなのかっていうことが先生同士でちゃんと連携して伝えて、学年が変わったときにありのままと言える状態であるということ大事かなと思います。先生に言うと、おおごとにするというのが子どもたちの中にはあると思うので、見えてないという前提で先生にも見ていただかないと思います。これで細かく数字を上げないといけないからということが、あんまり裏目に出ると、なかなか現状とは、ずれていく気がします。これも一部であるという意識は持っていて、子どもを見ていただいたほうが良いと思います。全国比に近づけねばと思うよりは、ありのままはどうなのかっていうことを意識していただきたいと思います。

中川教育対策監： アンケート調査や、QUとかも取っていますので、いろんな角度から、直接やられたということは書けなくても、今、学級の中で自分の立ち位置はここになって、ちょっとしんどいかなというのを書ける調査があります。第三者的に見て子どもが、いじめられたどうこうじゃなく自分の学級での立ち位置、ちょっとしんどいとか、不満があるとか、認められてないとかを調べることができる調査を町のほうも取っていて、ハイパーQUという新しいQUなんですけど、社会性や部活、中学生向きの分を今年から入れているので、またアンケートで書きにくい所も、丸付け形式なので書けますので、そういうのも合わせて学校で見取って対処していると思います。

横山委員： アンケートは、今も年間3回やっているのですか。

中川教育対策監： 一応、2回以上になってます。県の人権教育課から、こういうアンケートをしてくださいと下りてくる共通の形式がありますので、共通の形式を2回以上やってくださいということです。

横山委員： この分析に書いていますけど、教職員が見取りをして小さいことも上げる、これ

は昔から小さいことも計上しないといけないと言われていたので、今回の増えてるといのは、アンケートにいじめがあるということをちゃんと子どもたちが書いた、そのパーセントが多くなっているということで、子どもたちのアンケートによって認知ができたということですね。見取りというのは教師が常に気を付けて取組なんかもしているので、子どもたちがアンケートに書かれていたということで数字が上がっているのですよね。残念ながら、子どもの口からこういうことがあったといのはなかなか言えないというの、数字が下がっている、そういうのが心配ですけども、学校でもずっと取組はしていると思うので、今後とも、直接的じゃなくて間接的にいろんな心情に訴えるような、いろんな教科外を取組といいますか、道徳や特別活動などで取組をしているとは思いますが。校長会なんかでもそういった取組のことや、委員会があるので、委員会としての指導なんか、学校に対しての指導も必要かなと思います。

この分析では、アンケートにいじめがあったと書かれていたといのが多くなっている、そういった、分析の文言がちょっとどうかと思います。

石崎委員： アンケートが平成30年と令和元年度、内容的には一緒ですか。

中川教育対策監： 一緒です。

石崎委員： アンケート調査結果では、2倍以上ですか。

佐々倉委員： それを先生に言えなかった部分とかですか。

石崎委員： 令和元年度のほうが答えやすいような内容に変更したのかなと思って、聞いてみたんですが、内容的には一緒なんですね。

佐々倉委員： でも、アンケートが6割占めてるといのは、例えば低学年の1、2年生とかが上手にアンケートに表現できるとも思えないので、その辺、隠れていないのかなという部分も気になりますね。

中川教育対策監： 小学生向き、中学生向きで学年に合わせて作っている、内容的には大丈夫じゃないかなという内容でした。ひょっとしたら分かりにくい子がいる可能性もあるかもしれません。

教育長： この件数自体は、公表になるわけですか。市町村別の公表なのですか。

中川教育対策監： 文科省から不登校や、いじめの認知件数については、こうなってますということをしてテレビ、新聞とかでも公表されます。高知県の数値については、学校のほうにデータとしてお送りしていますが、四万十町内の分は委員会だけの数値で、学校にはお送りしていません。

教育長： 非常に全国レベル、高知県レベル、突出して四万十町といのは、認知の定義という条件、それから件数の数え方的なところは統一してから全部やっているわけですね。

中川教育対策監： そうですが、それは各教育委員会の考え方もあります。そこのあたりが、高知県はこういうふうにしてくださいという形でやっています。

教育長： 件数の取扱いはどうあれ、1人の子が数人からやられても1件なのですか。

中川教育対策監： 一応、加害件数としては1件ということです。加害者でカウントしますので、加害件数としては1件です。

横山委員： なかなか把握ができないけども、各学校だったら学校訪問してもゼロ件という学校も何校かありますね。

佐々倉委員： そんなわけないです。

坂本委員： 去年も、神戸で会があったときに、ちょうどいじめの部会で、全国の数字が出ていたんですけども、ゼロというところもあって、そんなはずないということで皆さん、

そういう感じで、これはどういう取組をしたか、どういう捉え方をしたかというようなことは皆さん分かっていて、資料を見たと思います。京都は本当少なかったですけども、そんなはずはないという感じで皆さん見てましたね。

中川教育対策監： いじめの数値が上がると、その県は荒れてるみたいな認識を持たれやすいというので数値を上げるのを嫌がる傾向にあったのが、そうじゃないですよということで、悪意のない冷やかしとかも全部、それは重大事案につながる可能性があるので上げてくださいねということで、上がってきたということです。町内でもゼロ件の学校はもちろんあります。その場合は聞き取りさせていただいて、本当にはないですかと言って、本当にはないですと言うので、それ以上は言えません。

坂本委員： 数字が多いところは先生方がよく、アンケートとかいろいろなこと子どもとの関係が、聞き取りをしてるといような。子どもから言うというのはなかなかあれですけども、先生方がやっているところの数字かなというところで皆さん、その場でも捉えてました。

佐々倉委員： 数字だけで話すことにあまり意味がないなというような気がして。5件なら5件はどのような案件なのかが見えないと、数字だけの報告では意味がないです。減らしましょうと言っても、先生が細かいことも上げているのでという話であれば、多くても当たり前なんです。その案件がどういう状況で、学校全体としてどう捉えているのかということまで先生に言ってもらわないと、拾うだけでは意味がないなという気はします。

中川教育対策監： データとしては出てますが、それぞれの案件については、学校が把握をして、ずっと取組をしてくださっているので、そのあたりは大丈夫かなと思っています。あと、今、夢プロという学級活動で学校を変えていくという取組を窪川小学校が今年2年目の研究で、今年2月に発表会がある予定です。窪川中学校も今年1年目の研究ということで、居心地のいい学級をつくることによって生徒指導上の諸課題とか、いじめとか不登校を防ごうということで今、取組をしています。やってる小中での取組が四万十町内に広がったり、それを県としては県全体に広げていきたいということで、指定校がいくつかあって取り組んでいますので、今度の研究会で窪川小のやっている取組が他の小学校にも広がっていけば、学級とか学校も変わってくるのかなというふうには思っています。

佐々倉委員： 例えば、夢プロの前後に年度初め、年度終わりにQUのアンケートをあえて持ってきてるとかってことはありますか。

中川教育対策監： アンケートは、夢プロ独自のアンケートがあるので、経年変化で今年、この時期取るものは決まっています。子どもたちの意識がどう変わっていったのかというのは学校で把握をしていますので、QUとは別にやっています。

教育長： 以上、いじめの認知件数ですが、言われたとおり、表に出た件数がこれだけあるということで、四万十町は特に丁寧に把握もされているのかなというところもあります。学校独自で内容も把握して取り組んでいただいているおかげで重要な事件とか問題とかになってないのが現状でありますので、統一的な調査ですので、これはまた学校へもお返しして、学校自体が分かっているとしますので、引き続き子どもたちの見取りをお願いをしていきたいと思えます。

続いて、3ページの不登校についてですが、この件について何かございませんでしょうか。

佐々倉委員： 中学生の新たに不登校になった生徒5名というのは、どういう内容ですか。

中川教育対策監： 中学校に入学してからです。7月段階で12件だったんですが、不登校になってい

る、10日以上休んでる生徒が12件だったんですけれども、その中で昨年、不登校でなかった生徒で、今年になって新たにという生徒が5名です。

佐々倉委員： その理由は何ですか。

中川教育対策監： 理由は学力的なしんどさや、学校になじめなかったとかです。私の主観ですけども、勉強がしんどくなって休むっていう件数は増えてきたかなというふうには、思っています。昨年度の増えたときの件数も、いろいろ聞き取りした時に、ちょっと勉強がしんどくなってということで学校に来にくくなってということのを結構、耳にしました。

佐々倉委員： それは先生が、そうおっしゃっていたんですか。

中川教育対策監： 学習のつまずきとかがあるんじゃないかなということの上で上がってきた件数があります。最初は友達との関係がうまくいかないということもあったけれど、実は勉強もしんどかったみたいな複合的なものもあります。学習の面でしんどくなってる生徒が多くなってると感じています。

石崎委員： 2学期になってからの不登校が多くなったというようなことが出されてますが、新中学校1年生が入学して、その後、まだ学校に慣れなくて2学期から不登校というようなことでもなく、そのあたり何年生が2学期になって多くなったというようなことなんでしょうか。

中川教育対策監： 去年です。中学2年生だったと思います。3年生になっても継続して来てないという件数が多くなっています。

石崎委員： 学習に付いていけなくなったというのが多いんでしょうか。

中川教育対策監： ゲーム依存になってるとか、色々なことがあります。

石崎委員： 中2が一番ふらふらしそうな学年ではあるので、ある程度、目標が決まった子は学習面にもかなり力が入ってきますが、何となくしょうがないけれども、まだ、はっきり進学とかを決めていない、決まらないみたいな子が不登校気味になるのかなというようなことでしょうか。

中川教育対策監： 2学期に発生することが多いです。学校のほうではどうしてか分からないんですが、1学期は緊張感を持ってやっていたのが、慣れてきて、行事もあり、いろんなものが終わった後、2学期に学級が荒れたり、不登校だったりというのはよく聞いたりします。中だるみの時期なのかもしれませんが、中2がそういうのになりやすい傾向にあるかなと思っています。学級経営も一番中学2年生が難しいです。

石崎委員： 新1年生は新しい中学校で新しい気持ちで頑張ってるやろうと、3年生になったら将来を見据えて、もっと頑張ろうとする。2年生は、なかなか目的意識を持たず指導にかなり力を入れないと、ひよろひよろとなってくるのかなというような気がしています。

教育長： 不登校の要因は様々あると思いますが、先ほどの前段の、いじめによる不登校という案件というのは最近ではどうなんですか。

中川教育対策監： そういう案件は聞いてないです。けんかとかトラブルがあって、暴力とかいろいろあって、それで休んでるっていうのは聞いてないです。そういう案件はないです。

教育長： 仲間外れとか、いじめの認知の件数でいくとどうですか。

中川教育対策監： 今、私は把握してないです。ご家庭的な背景があったり、本人の特性もあって学級になじめないとか、いろんなことで、いじめられたとか学級で嫌な思いをしてというのはこちらのほうには入ってきてないんです。

教育長： これは30年度と令和元年度の調査結果で、今年度は人数的にはどうなんですか。

中川教育対策監： 現在、中学校は、12件で、小学校は5件です。小学校は、昨年度、不登校だった

生徒はそのまま継続ということで、中学校のほうで新たに5件です。7名は昨年度からの継続ということです。

横山委員： 僕は30代の頃、同和教育主任になって、イコール不登校担当みたいな感じで、昔は勉強が分からなくなったというか、そういう子どもさんがすごい割合的には多かった。結局、学力、学習に付いていけないというか、友達関係があっても勉強する気力がなく、結局は、いじめでも何でも勉強する方向に向かないっていうか、諦めというか、それでゲームをするという。結局は、つまずきを学校できちんとやっていくことで、勉強ができたなら結構、展望を持てるんです。僕は、やればできるんだみたいな、そういう展望があったら、また、それを克服する子どもさんもいたんですけど、結局は学習意欲がなくなるってというのが、すごく課題でした。突き詰めていくと、学力で自信がなくなった。行っても恥ずかしいので、そういうので学校行けなくなるという子どもさんが多かったです。早い段階から学力というか、そういうことを付けていくというのが大事で、今のことは分からない部分もあるんですけども、昔はそうでした。

佐々倉委員： 北ノ川中学校に訪問したときだったか、全部の授業の記録が書かれていて、どの授業でどの子が集中力が途切れててグループワークから外れてたみたいなメモを教頭先生が多分、進められて書いて、それを教科が別の先生とか担任の先生も見れるっていうのをされてたと思うんです。あれは、すごくいいなと思って、中学生が学力の面で問題になって不登校になると手の打ちようがないというか、登校刺激をしようにも学力が戻らないと来れないという状況だと思います。毎回、家庭教師のように教えに行くのも先生も厳しいと思うし、そこが小学生のそこを救うのとは全然かける時間が違ってくると思うんです。中学生がそこまでになる前に、やばいなと自分で思い始めて自信をなくし始めてるぐらいの段階で先生がフォロー、お時間も無いと思うんですけども、できると。いじめの件数よりも、全児童数の中で不登校がさらに5名増えてるという数のほうがかなり大きい。その理由が、いじめとかではなく学力だけというのはかなり大きいかなと思うので、1クラス、そこまで人数が大きいわけではないと思うので、学力の高低の差というのはないと思います。

坂本委員： 中学生は1日、2日休むとついていくのに大変ですね。

佐々倉委員： 休めば休むほど大変になりますね。

坂本委員： 数学なんか特に取り返しが難しいですよ。

中川教育対鑑： ちょっと休んでも、取り返すの難しいので。自分が休んでるうちにすごい進んでいる場合があります。

佐々倉委員： 人が覚えるようなものもそうですね。

坂本委員： 行くのに勇気が要りますね。

教育長： いろいろご意見もいただきました、また、これは調査結果として数字の調査結果ではありますが。特に先ほどの不登校については現実的に不登校しぶりの児童生徒も現実にはいるわけですので、早期の対応も必要やと思います。その点では小さいうちからの土壌づくり、学びに向かう姿勢づくりが大事やと思いますので、また、この調査結果も学校へフィードバックして、また、次につなげていきたいと思ひます

教育長： 以上で報告事項を終了いたします。

続いて、報告事項 ②小鳩保育所の進捗状況について、③高南台地総合美術展覧会について、事務局より説明をお願いします。

(事務局より、報告事項 ②小鳩保育所の進捗状況について、③高南台地総合美術展覧会について、説明する。)

教育長 : 続いて、その他 ①適正配置計画の進捗状況について、報告をさせていただきます。
東副課長、お願いします。

(事務局より、その他 ①適正配置計画の進捗状況について、説明する。)

教育長 : 事務局より説明をさせていただきました。1年延期ということと、合わせて中学校同士、また田野々小との交流も来年度は特にやっていかなければなりません。その前段で保護者等との詳細な協議も進めていきたいわけですが、その前段として地域向けの説明会を2日間、行いました。また、一番最後の要旨についてはご覧をいただきましたわけですが、中学校の統合については、やむを得ないものとして一定、了解なり同意的なものはいっているというふうに判断はできますが、現実的には保護者の中には窪川中学校へ行けないのかなどの、いろんなご意見が出ていました。また、これについては、丁寧な説明もしていかないといけないと思います。2日間の説明なりの意見、回答、そしてまた住民の皆さんから意見もいただくように、今日付けの区長文書で全戸配布をさせていただくようにしております。

佐々倉委員 : 小学校見込み数はどのぐらいなんですか。

西谷学校教育課長 : 一応、十和地域は昭和と十川1つ、大正地域は北ノ川と田野々で1つにするということですね。窪川地域は、仁井田地域で影野小と仁井田小学校があるんですが、そこは今後の見通しによっては、そこでまず統合をするのか窪川小と統合する形になります。あと、松葉川地域では七里小学校と米奥小学校で統合するというので、そこで2つです。興津小は、東又小と統合ですので3つになります。それから、川口小は、窪川小になりますので、そこで統合という形で、窪川地域では4つ、大正、十和1校ずつということで現在の計画は進んでおります。全部を統合すると窪川は2つ、大正、十和は1校ずつで4小学校ということなんです。

教育長 : 一定の理想とする1学年の人数は、基準は上げているわけですが、小学校についても今後、来年度以降、議論にはなろうと思います。その前段で過去には昭和中学校と十川中学校の統合の議論もありました。今回、北ノ川中学校と大正学校の統合について、まず地域へ説明が先なのか、保護者へ説明が先なのか、この議論がなかなか地域によっては、まずは地域から先だろうというところもあれば、保護者の意見を聞いて、それから地域へというところもあります。そのスタートを間違えなければ議論を深めることができますが、北ノ川の地域についても、そこは見合わずところがあります。

佐々倉委員 : 地域という中に保護者が行きたかったら保護者が参加すればいいのか、包括したほうがいいですね。

教育長 : 保護者がOKを出したら、地域に対してという保護者の思いもあるでしょうし、なかなか難しいと思います。

横山委員 : 中学校はすぐ、就業年間短いので、小学校の保護者が、いろいろ。中学校の統合とは関係ないけども、小学校の校舎って54年ぐらい経っていると思います。中学校がその半分なので27年ぐらいだと思うので、中学校が統合したら小学校の校舎、小学生が中学校の校舎を使うとかっていうようなことにはなりますか。

西谷学校教育課長： 小学校、中学校の校舎というのは黒板の位置とか、トイレの問題とか洗面所の問題もいろいろあって改築が必要です。そういったことも含めて今後、今年、学校施設長寿命化計画というものを作るようになってまして、今後の管理の方法をそこで詰めていっているような段階です。その中には、先ほど横山委員が言われたように、小中学校の校舎の改築が、何年たっているのか、建て替えるのか、長寿命化工事をして延ばしていくのかというような判断をするように現在、詰めています。統合も踏まえて、その計画の策定を進めており、なるだけ校舎を有効利用するという事で考えています。

浜田教育次長： 以前は、大奈路小学校が老朽化していたこともあり、中学校の校舎を小学校で使用した経過はあります。

西谷学校教育課長： 小学校1年生と中学校3年生では、全然違いますので、次長が言われたように、なかなか大変だと思います。

教育長： 本日の発送の区長文書もお手元に、また、ご覧いただいたらと思います。こういうことで北ノ川地区についても詳細な協議を保護者と進めていきたいと思っておりますので、また、何かございましたらご報告もさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

合わせて、興津中学校の閉校については3月28日の日曜日、桜マラソンの日です。3月28日が閉校記念式典となります。また、教育委員の皆様にもご案内もさせていただくこととなりますので、予定していただきたいと思っております。

東学校教育副課長： 午前中、10時を予定しておりますので、近くになりましたらまたお知らせします。

教育長： その他については、何かございませんでしょうか。

それでは、次回の定例教育委員会は、12月8日火曜日となります。合わせて、早いですが、1月定例会は、1月12日の火曜日の予定となります。今年については、前回申し上げました、教育委員さん、自分たちを含めた研修がなかなか開催されず、全て延期になりましたので、その点についてはご了承願いたいと思っております。

それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了しました。教育委員会11月定例会を閉会させていただきます。

(閉会)

12月の定例委員会予定 令和2年12月 8日(火)

1月の定例委員会予定 令和3年 1月12日(火)

教育長： _____

署名人： _____